

「認知症」に関するシンポジウムの開催

【支援金確定額：218,214円 支援率：50%】

記入日：平成25年（2013年）3月31日

■どのような活動をしている団体ですか？

船橋地域における福祉・介護・医療サービスの充実のためには、現在のシステムでは不十分であり、新たな構築が必要です。そのためには、医師・看護師等の専門職の枠組みを超え、サービスを受ける側の意思が反映されるよう、地域住民をも含めた新たな連携関係が重要です。専門職がそれぞれの仕事を通じて得た知識と経験を有効に活用し、新しいサービスシステムを創出し、一般に普及することを目的としています。

平成25年3月現在で、会員数は約60人です。本機構の理念を実現するため、講演会・シンポジウムの開催、そして、連携を行うためのシステム作りを継続的に行っています。



認知症と食 会場風景

■支援金をどのように活用されましたか？

今年度は「認知症」に関する市民公開シンポジウムを2回にわたって開催しました。具体的には、「認知症」を中心として二つのテーマで行いました。1回目は「認知症と食」（平成24年6月24日）というテーマで、2回目は「認知症と成年後見制度」（平成24年9月9日）というテーマで行いました。これら2回のシンポジウム開催のための費用の一部として支援金を活用しました。



認知症と成年後見制度 会場風景

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

認知症は、高齢者人口が増加し罹患者数が増える一方である今日、極めて関心の高いテーマです。

認知症に関するシンポジウム・講演会等は昨今頻繁に行われていますが、その内容の大半は疾病の症状、対応の仕方などが中心です。今回、我々は、認知症を別の観点から捉え、「食」、「成年後見制度」という二つの側面からスポットを当てました。食に関しては、食事内容、食事上の注意点等について、歯科医師、栄養士等他、多職種の方からご意見を頂き活発な討論を行いました。参加者の多くが認知症高齢者を介護しており、日常介護に役立つ内容であったと好評でした。成年後見制度に関しては、独居あるいは身寄りのない認知症高齢者が増加している今日、極めて重要な問題であり、今後この制度をどのように普及・活用していくかが課題となります。今回は医師・行政・弁護士等をシンポジストとして招き、今後の制度のあり方について討論を行いました。自分自身のこととして聞かれていた参加者もあり、また介護等の専門職の方も参加しており、極めて有意義であったと考えます。

■今後の活動の抱負について

平成22年度から一貫して「食」をテーマにシンポジウムを行っています。平成25年度は公募型支援事業として「食と健康に関するシンポジウム」を開催します。今回の内容の特徴は、実際に低塩分食・低カロリー食等を参加者に食べてもらって討論を行う、従来とは異なる参加型のシンポジウムです。その他にも独自の事業として、認知症公開講座、専門職向け講座、第2回ふなばし福祉まつり in イオンモール船橋等を行う予定です。

■問い合わせ先：事務局 鶴澤 龍一（うざわ りゅういち）

TEL：047-495-9559

E-mail：funabasi.fukusi.kikou@gmail.com